

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-130	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Neighborhood Psychosocial Hazards and Binge Drinking among Late Middle-Aged Adults. 中高年期における地域の心理社会的な危険性と多量飲酒		
執筆者		
Rudolph KE, Glass TA, Crum RM, Schwartz BS.		
掲載誌		
J Urban Health. 2013 Oct;90(5):970-82. doi: 10.1007/s11524-013-9790-2.		
キーワード		PMID
アルコール、地域、地域、高齢者、都市部		23430376
要 旨		
<p>背景： 高齢者は加齢に伴い、アルコールによる健康被害を受けやすいようであり、地域における不安や悩みが飲酒につながることもある。</p> <p>方法： ボルチモア市の 65 の地域に住む 50-70 歳の住民を対象としたコホート研究である Baltimore Memory 研究からのベースラインデータを用いて、地域の心理社会的な危険性（NPH）と非禁酒家（N=645）の前月に多量飲酒をした日数を調査した。一般化推定方程式を用いた負の二項回帰によって、月あたりの多量飲酒の日数と NPH スコアの 1 標準偏差上昇との関連性を評価した。</p> <p>結果： 心理社会的な危険性が高い地域に住んでいる女性は、独立して多量飲酒との関連性が確認されたが、同様の男性では関連性は見られなかった。女性に関しては、NPH スコアの 1 標準偏差上昇に対する多量飲酒の相対危険は 1.52（95%信頼区間 1.10-2.10）であった。</p> <p>結論： 本研究は、地域環境の不良な状態と中高年女性の多量飲酒との関係についてのエビデンスとなるものであり、また中高年の男性と女性とでは不良な地域環境への反応が異なることが示唆された。</p>		